



フライか、コロッケか

今日の給食のおかずは「カボチャの挽肉フライ」

「ん？ フライ？ これはコロッケではないのか？」と、素朴な疑問が。

フライとコロッケの違いは何だろうと、職員室で聞くと、

「フライはへらべったい。だから今日の形はフライ」という声か。

なるほど形で違いがあるという意見か。他の考え方はないのだろうか。

こんな時、すぐにネットで調べようとする自分がいる。

便利な時代になったとはいえ、最近では自分で考えようとしなくなった。

「常に考える」を重点目標としながらも、自分で考えずに安易に検索しようとしている。

自分なりの理由をあれこれ考え、その後、検索して確認する方が豊かな知識として残るかも。

すぐにネット検索に走るのではなく、自分で考える習慣を忘れずに持ちたいものです。

さて、今日の読売新聞1面に、「小5『バナナ320本で死ぬ』」の文字が。

都市伝説を信じ、平日2時間、土日は6時間スマホにかじりつく小5児童の話だった。

ネット記事は、正確さよりも関心（アテンション）を集めることが優先されるという。

閲覧履歴を基に、その利用者が好む情報をおすすめとして提示してくる。

結果、偏った情報ばかりに包まれるという危険が潜む。

小5の子は、戦闘ゲームの攻略法を検索して見続けていたら、「死」に関連するサイトが検索サイトに上がってきたらしい。

そして「致死量」をまとめた動画に釘付けになったとか。なんとも恐ろしい話だ。

ある児童は、ネットで得た知識を教員に質問し、答えられないと「先生なのに知らんの？」と。

また、ある高校生はロシアのウクライナ侵略後に「日本も徴兵制になる」と主張。

どちらもネットに強く影響を受けた結果だ。

自分が知り得た情報こそが正しく、その内容が偏向したり、過激化したりしていることに気付かない。

学校として、そして教職員としてできることは何だろうか。

やっぱり、インターネットの怖さ、危険な面を繰り返し伝えていくしかないと思う。

さてさて、フライとコロッケ問題は？

まあ、答えはきっとネットの中にあるでしょう。

でも、ああだこうだと考えて、遠回りに感じられる議論をするのも面白いと思う。

名将、野村克也監督はこんな言葉を残しています。

「考えることは、才能のない人間の最大の武器である」

考えることを放棄すると、最大の武器を失うことになりますね。気を付けていきたいものです。